

平成24年度を迎えて



酒井代表

4月は入学、入社、転勤と日本では人生の新しいスタートの時期です。大概、「始まり」は不安と共に期待があつて緊張感を伴っています。譬えてみれば坂道とか山を登って行くような感じかもしれません。一方「終わり」は悲しみとか、敗北のようなマイナスのイメージですが、完成とか成就といった仕上げの意味もあります。私たちはこの始まりと終わりの間を生きているわ

けです。企業の大事な目標はとにかく長生きをすることです。隆盛を極める事は危険です。長生きの人はみな中ぐらいに健康でほどほどの生き方をしていくことを見習うべきです。事業には良い時も悪い時もあります。悪い時でもそこから少しでも高みに行く事が感じられると人は窮乏の中にあつても希望を感じられます。戦後間もなくの日本がそうでした。今ならベトナムやインドネシア、ミャンマーなどがそうです。日本は一度隆盛をほこりました。今何をすべきか？デフレや少子高齢化のため先行きに希望が持てない中これからのような事をしたらよいのか？

答えは東日本大震災の中にあるように思います。被災をされた人たちがあ

第31号

分社

分社グループ会報

《発行元》
分社理念研究所 事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田8丁目
11番21号五反田TRビル
TEL 03-5496-1810
FAX 03-5496-1881

分社グループ社長会・勉強会開催

平成24年3月15日（木）コートヤード・マリOTT銀座東武ホテルにおいて社長会が開催されました。

はじめに篠崎会長よりご挨拶をいただき、上期業績報告と月次業績推移（2月の実績と3月の計画）、続いてフアナックマグトロニクス（株）社長より2月23日に開催された「経理・税務・金融部会」の開催報告がなされました。

また、各社の現況について報告や意見交換がなされ、酒井代表の挨拶で締めくくられました。

事務局からの連絡事項が伝えられたのち、愛知淑徳大学ビジネス学部教授真田幸光先生をお迎えして勉強会が開催されました。

「2012年の国内外の経済・景気動向」と題し、日々

の時に、あるいは避難先で示した行動が私たち日本人の真の姿だと思えます。外国特派員が日本人にしか出来ない行動と報道していました。この姿勢を経済にも政治・外交にも、あるいは物作りやサービスなどの事業にも生かす事が出来たら日本は間違いなく再生すると確信します。

海外を飛び回っている真田先生より様々な事例を交えてご講義いただきました。



写真(右)は講義中の真田先生、(左)は勉強会の様子。

11 社会



平成24年3月15日(木)コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて11社会が開催されました。

分社理念研究所木村副代表が座長を務め、社長会に引き続きご参集いただいた各社代表取締役より平成23年度の総括と平成24年度の見通し、また資金繰りや自社で抱えている問題・課題等について話し合われました。



経理・税務・金融部会



グループ各社より23名が参加。

分科会開催

平成24年2月23日(木)五反田ゆうほうとにおいて経理・税務・金融部会が開催されました。

講師はグループ顧問の野村聡先生。

平成24年度の会計・税制改正点(会計・税制改正、経営分析指標、キャッシュフロー分析など)について、事例研究を交えながら学びました。



特にキャッシュフロー分析については自社の前年度の計算書類(貸借対照表・損益計算書など)を用い実際に計算しながら理解を深める有意義な勉強会となりました。



平成24年度 経営方針発表

大陽工業株式会社

分社グループ 新事業年度 スタート

重点施策

- ・財務体質の改善・強化
- ・海外提携先(3社)の積極的活用による営業活動の展開
- ・自社製品のデマンド装置の販売促進(電気代削減アピール)



代表取締役
酒井陽太

グループ各社より平成24年度の経営方針と重点施策を発表していただきましたのでご紹介いたします。

【経営方針】

弊社を取り巻く経営環境は厳しいものがありますが、これを「生まれ変わるチャンス」と認識し、社内体制の徹底的な見直しを実行し、強靱な体質への改善にチャレンジします。

平成24年度

売上目標 485億円
利益目標 11億円
(グループ全体)

株式会社大昌電子

重点施策

- ・海外への販売強化、モジュール基板の拡販でシェア拡大
- ・先端技術・要素技術力の強化による特徴製品の開発ならびに超品質
- ・自己資本の増強・有利子負債の削減で財務体質強化



代表取締役
篠崎尚利

【経営方針】

創業の原点に立ち、反撃の年に！
『顧客第一主義、世界に通用する製品を作る』

富士精密株式会社

重点施策

- ・生産効率の向上
- ・創造力の養成
- ・信頼される企業への追求



代表取締役
山田敏明

【経営方針】

今期は「Value Up」をキーワードに企業価値、個人の価値、製品の価値向上に挑戦していきたいと思っております。歴史的な円高、原発事故による電力問題を背景に日本産業の空洞化への懸念が高まっていますが、この危機的状況を乗り越えるべく、全社員の叡智を結集し、邁進して参ります。

丸忠デジタル株式会社

重点施策

- ・精密加工を核にお客様のベストパートナーになる
- ・今まで培ってきた知識と技能を生かし新規フィールドへ進出する
- ・積層から外形加工までお客様のフルサポート・サービス業になる



代表取締役
増島清治

【経営方針】

優れた技術と独創性で質の高い製品を提供し、社会の進歩発展に貢献する。

インテグラン株式会社

重点施策

- ・電源グループ: 経常利益率5%、売上20億円へのスタート元年
- ・装置グループ: 自社製品販売のスタート元年
- ・基板設計グループ: 高難易度基板の売上比率を6割以上にするスタート元年



代表取締役
関山浩一

【経営方針】

- 組織の求心力の更なる向上を目指す
- 全社員、GOODコミュニケーターであられ
- あらゆる仕事は誰かへのサービス業である

セブンヒルズ株式会社

重点施策

- ・新規開拓
- ・営業訪問を定期的に行い情報の収集



代表取締役
鎌内 勉

【経営方針】

もったいないをビジネスに！

フォレスト総合ケア株式会社

重点施策

- ・保険募集ポスター掲示による定期キャンペーンの実施
- ・各種商品販売と経費削減コンサルタント営業
- ・新商品並びに各種サービスをお客様に迅速提案



代表取締役
平岡敏雄

【経営方針】

私どもは「安心とやさしさ」を基本理念に「医・食・住」さまざまな局面においてお客様の立場を第一に考え（感謝・感激・感動）を従業員全員の共有とし、お客様に無形の利益を提供して、常にオリジナリティーを意識した事業展開を図って参ります。

大金電子工業株式会社

重点施策

- ・顧客基盤の強化
- ・事業基盤の強化
- ・経営資源の強化



代表取締役
本間 修

【経営方針】

当期は、40期という節目の年を迎えます。これからも企業活動を継続し成長を図るためには、規模の追求や営利目的の活動だけではなく、顧客との関係強化「顧客基盤の強化」を最大の目的とすることで、顧客や社会のニーズに応じていく必要があります。その為には「事業基盤の強化」及び人材育成をはじめとした「経営資源の強化」を推進し対応力を磨きます。今年は「一陽来復」をイメージして事業発展を目指します。

株式会社幸大ハイテック

重点施策

- ・ブランド力向上(お客様に幸大ハイテックのファンになってもらう)
- ・次世代型高効率生産工場(FMS構築)
- ・経営革新(PDCA見える化)活動



代表取締役
根本武夫

【経営方針】

グローバル競争に勝ち残る為に、スピード感を持って全員参加で「ほんものの経営革新」を実現し、驚きと感動を与える、魅せる生産工場を目指します。そして、36年間のODMで培った設計・製造からアフターメンテナンスなどの実績・ノウハウを医療機器、メカトロ機器に通信(無線+各種センサー技術)を付加した制御技術で差別化し、生命産業(社会インフラ、医療福祉、農業等)にチャレンジして参ります。

株式会社ダイチューテクノロジーズ

重点施策

- ・新規受注の拡大
- ・為替リスクの軽減
- ・固定費の削減



代表取締役
真道保美

【経営方針】

- ①組織の強化 ②営業強化
③開発強化 ④原価低減 ⑤生産管理力の強化

ファナックマグトロニクス株式会社

重点施策

- ・コスト改革
- ・ビジネス革新
- ・企業力強化



代表取締役
菅 正彦

【経営方針】

大方針：信頼性の向上
それでお客様は満足か
(お客様第一主義に徹する)

基本方針：Break-Through

株式会社サテリット

重点施策

- ・受注体制の強化
- ・新分野への挑戦
- ・世代交代への取り組み



代表取締役
矢澤克弘

【経営方針】

メカ部品、試作品の分野で高精度、短納期での製品化を実現し、常にユーザーの要望に応じていく最先端の技術を培っていく。

株式会社ウィーゴ

重点施策

- ・管理体制の強化
- ・来期につなぐ人材育成
- ・外部との出会い活動の推進



代表取締役
松澤 悟

【経営方針】

新たな分野の取り込みを急務とし新規事業の取り込み

株式会社富士コスモサイエンス

重点施策

- ・買取先への販売分析営業
- ・雑貨市場、書籍市場への進出
- ・効率の向上と経費削減



代表取締役
佐藤龍治

【経営方針】

平成24年度は大震災の復興需要が期待されていますが、長期デフレ、所得低下による消費の減少、円高による産業の海外移転などの要因で景気は不透明です。また、大震災や原発事故で人々の意識が変化し、市場環境が激変、競争が激化しています。厳しい逆境の時代ですが、弱点を強化する社内改革の絶好の機会でもあります。一層の工夫と効率の向上を図り、競争に打ち勝つ商品開発と市場開拓を目指して参ります。

日本フライトセーフティ株式会社

【経営方針】

航空業界に優秀な操縦士を送り込むことにより、航空業界の発展を基礎から支える



代表取締役
山田元昭

重点施策

- ・優秀かつ誠実な訓練で、訓練生の信頼を得、確実に卒業生の就職を支援して、その評判を上げる。そのことが顧客確保の最大の近道であると、社員意識を徹底させる。
- ・確かな技術と経験に合わせ、基本に忠実な運航で安全を確実なものとし、無事故記録を更新。
- ・昨年度後半より、急上昇している遊覧飛行、航空写真撮影をサービス業としての観点より、顧客サービスをより一層充実させ、さらなる向上を目指す。

株式会社トライターム

重点施策

- ・信頼性の向上
- ・生産効率の向上
- ・顧客の深堀と拡大



代表取締役
菅実

【経営方針】

前期下期からの景気後退の影響により今期は厳しい受注環境が予想されますが、「それでお客様は満足か Value Up!」を合言葉に役員・社員一人ひとりが品質の重要性を認識し、高品質の製品を供給することに務めます。

株式会社コダビット

重点施策

- ・スタッフのキャリアアップ
- ・安定的な雇用創出
- ・“Independence2013”の実践



代表取締役
三輪 隆

【経営方針】

労働者派遣事業に於いて、逆風が吹き荒れる中、安定的な雇用確保を目指し、スタッフのキャリアアップを実践します。特に今後、日本の生産性を維持する上でも欠かせない女性労働力に注目し、ワークライフバランスを考えた職場環境を向上させ、働きやすい社会に変えていきます。と同時に、女性スタッフの活用法を提供していきます。

株式会社ニューシステムズテクノロジー

【経営方針】

ゼロからの再構築

重点施策

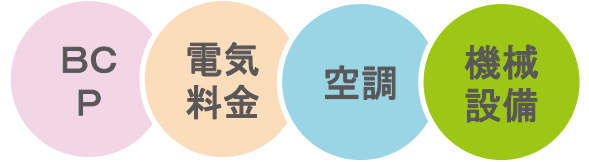
- ・社内体制の再構築
- ・外注先の多様化
- ・営業力強化



代表取締役
熊谷 修

～アンケート～

節電・緊急災害に備えて



今年4月1日より東京電力管内において企業向け電気料金の値上がりが始まりました。東京都は従来の自家発電設備や蓄電池に加えデマンド・コントローラ（需要電力抑制装置）にも助成制度を拡充し、中小企業の節電や電力の安定確保をより一層支援する方針を発表しています。また昨年の大震災を機に緊急災害時における対策や対応についての整備も急務となつて

います。そこで、これらの事柄についてグループ各社にアンケート調査を依頼したところ以下のような回答が寄せられました。このまま原子力発電所の稼働が見送られ続ければ来年以降も対応を余儀なくされる可能性があります。引き続き更なる企業努力が求められる中、各社で行われている対策や新たに導入を検討していることなどを以下のようにまとめました。

空調
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した設備の入れ替え ・NaCoo（デマンドコントローラ）の導入と活用 ・電力モニタリングシステム（スマートメーター）の導入検討 ・エアコン：稼働月の見直し/稼働時間の見直し/運転間引き/フィルターの定期清掃 ・温度設定：夏季28℃～29℃；冬期18℃～19℃ ・扇風機　・緑のカーテン　・屋根を日除けシートで覆う ・機械の廃熱を暖房に利用　など

電気・料金
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の契約期間満了までは現行料金を継続し、更新時期を迎えた時に値段交渉を行う ・電気料金の値上がり分をコージェネレーションシステムを活用して対応（燃料価格を見ながら） ・電力供給者の変更も視野に　・契約アンペアの引き下げ ・蛍光灯、水銀灯をLEDに付け替えた　・蛍光灯の間引き ・昼休み等待機電力を極力切る　・クールビズの延長 ・サマータイムの導入検討　・時間を決めて給湯器の電源を切る　・自動販売機の冷却停止時間延長　など

BCP
<ul style="list-style-type: none"> ・什器の転倒防止措置、積み上げ制限 ・機械設備（NC補正）　・老朽化設備の入れ替え　・システムデータのバックアップ体制整備（他地域・各拠点） ・緊急連絡網の整備　・マニュアルの作成、再整備 ・自衛消防団の配置見直し　・防災訓練による教育　など

機械設備
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した設備（コンプレッサー、リフロー炉、等々）を省電力のものへ入れ替え（検討中も含む） ・起動の分散（使用電力ピークを抑える）　・自家発電設備（太陽光発電等）導入検討　・フィルターの定期清掃　など

平成24年 分社グループ年間予定表 〔社長会・株主総会・吉生会〕

	5月30日(水)	6月27日(水)	9月14日(金)	12月21日(金)
株主総会		社長会	社長会	社長会
		株主総会		吉生会 (講演会・懇親会)
		吉生会 (懇親会)		

〔場所〕
コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル
東京都中央区銀座6-14-10
(03)3546-0111(代表)

平成24年 4月 分社グループ新入社員数 グループ全社員数

4月から新年度や新学期が始まり早くも1ヶ月余りがたちました。東日本大震災や就職難を乗り越えた若者たち約80万人が全国で新社会人の仲間入りをしたと推定されています。わが分社グループにも男性40名、女性15名、計55名が入社しました。平成24年4月のグループ全体調査では、男性175名、女性98名（契約・パート・派遣社員含む）が勤務しています。新しい仲間と一緒に

	男性	女性
新入社員数 (グループ全体)	40名	15名

(男性)		(女性)	
正社員	契約・委託・パート・派遣	正社員	契約・委託・パート・派遣
1,559	195	394	250
1754名		644名	

に今年も頑張っていきたいと思います。